

富子

○出迎えて石落の眩き黄色かな
人もまた潜りたき日あり鳩
鰯雲分け隔てなき贈り物

千代

○山に会ふ人ら善き顔石落日和
茶の花や移民二世の里帰り
添加物心配だがと鴨にパン

郁子(岡)

○廃屋に柚子の木一本空青し
○茶の花ややかん囲んだ遠い日よ
○石路の花庭の隅にて微笑みて

紀美

○門口につわぶきの花母のこと
庭の隅明るく照らす石路の花
月曆残る一枚暮早し

迪子

○鴨鍋やあだなどびかう同窓会
○ふだん着で風に踊るよ石路の花
押し入れに隠れて寝た子や菊枕



酔花

○花伏して秋海棠のひとり言
手内職夜食の茶漬け音たてて
糸電話耳にあてれば母の声

えり

○秋の暮となりの空家に灯がともる
今生のいまが幸せ吊し柿
モズ鳴くやボール蹴る声子らの声

志津子

○かいつぶり小さき水輪を残しおり
長き旅薄暮の庭の石路明り
日向ぼこゆつくり怒り解けてゆく



農子

日溜まりの蕾葉裏にお茶の花
つわの花辺たり明るく岩の陰
授賞式フィリピン地の加害詫ぶ

初江

そちこちに水輪残して鳩
ヘルパートと歩行練習花茶垣
雨戸立つよりの寂しさ冬の夜

丞子

○手品師の瞬間移動かいつぶり
天辺の一片咲き初む石路の花
北風や風に香の有りきな臭い

瑞枝

○石路の花今は昔の大家族
○鴨眺む老いの時間のたつぷりと
鴨の陣すいすい鷺は立ちん坊

酔花

○秋の暮となりの空家に灯がともる
今生のいまが幸せ吊し柿
モズ鳴くやボール蹴る声子らの声

えり

○花伏して秋海棠のひとり言
手内職夜食の茶漬け音たてて
糸電話耳にあてれば母の声

志津子

○秋の暮となりの空家に灯がともる
今生のいまが幸せ吊し柿
モズ鳴くやボール蹴る声子らの声

味元 昭次 作品

花石路の径を抜けたら水平線
浦人の家です石路の明るさに
ぷーちんに見せたき鳩の水輪かな

★次回市民句会

【開催日時】

令和六年十二月二十五日(水)

午後一時十五分〜午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます